

馬 埋蔵文化財最新発掘調査情報 馬

◆朝霞市では、現在69か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

きたはら・やついせき 北原・谷津遺跡第II地点

調査地：朝霞市浜崎三丁目地内

期間：令和3年9月21日～12月11日

調査面積：504.69㎡

◆今回の調査では、住居跡、掘建柱建物跡、陥し穴、土坑、溝跡、段切り状遺構、ピット、遺物集中区が確認されました。

遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、陶磁器、石器、礫等が出土しました。

住居跡は、縄文時代1軒、古墳時代2軒の竪穴住居跡が確認されました。縄文時代の遺構は、住居跡の他、陥し穴や、明確な掘り込みは確認できず近世まで遺物集中区といった形で数多くの遺物が出土しました。また、前時代の旧石器時代の遺物も出土したことから、旧石器時代から縄文時代にかけて連続して生活が営まれていたことが分かりました。

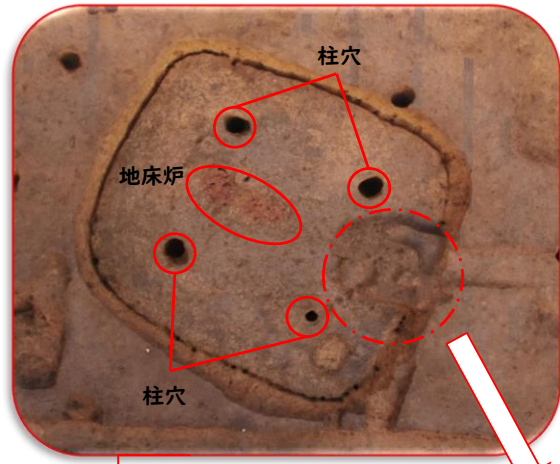
古墳時代の住居跡は、2軒とも地床炉（じしょうろ）や貯蔵穴、主に柱の穴と考えられるピットといった内部施設も確認され、うち1軒にはスロープ状の硬化面が確認されました。形状や用途を考えると入口の施設跡と考えるのが妥当でしょうか。

掘建柱建物跡は、ピット（柱穴）の並びから2×4間と考えられる建物跡です。遺物等の出土がないため詳細は不明ですが、ピットが近世以降に掘られた溝跡に壊されているなど、他の遺構との切り合い関係から中世以降と考えられます。

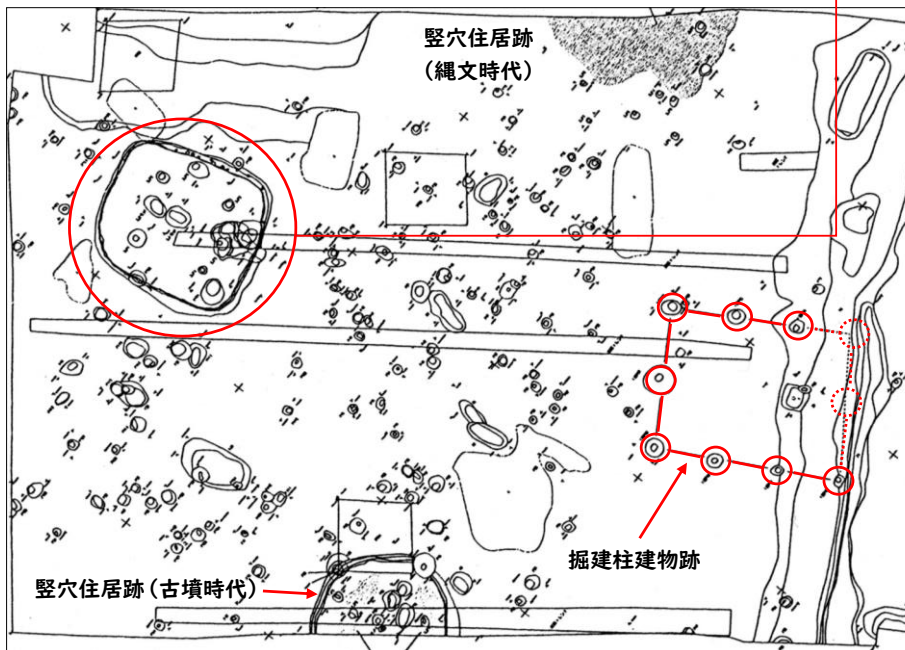
南側に流れる黒目川の低地に至る傾斜地に位置する当地点一帯は、三光院や氷川神社といった由緒ある寺社が存在するなど、歴史ある土地であることがうかがえます。それを裏付けるかのように、今回の調査では、古くは旧石器時代から、新しい時代では近世まで、連続と土地利用され続けられてきたことがわかりました。



北原・谷津遺跡第II地点 位置図



検出された竪穴住居跡(古墳時代)



入口の施設跡部分 接写
(住居内から住居外に向かって)

階段かな？
スロープかな？
出入りに使ってたのかな？



遺構検出状況